

# 学位論文要旨

臨床経験 3 年以上 20 歳代看護職者の離職願望の生起を予防するための  
看護実践の見つめ直しプログラムの開発  
(Development of a reflections program to reduce the turnover of nurses in their  
20s with three or more years of clinical experience)

鶴田 明美

Akemi Tsuruta

指導教員

前田 ひとみ教授

熊本大学大学院保健学教育部博士後期課程保健学専攻

## 学位論文要旨

【目的】本研究の目的は、臨床経験 3 年以上 20 歳代看護職者(以下、中堅前期看護職者)の離職願望の生起を予防するための看護実践の見つめ直しプログラムを開発することである。

【方法】[第 1 研究]熊本県内 100 床以上の医療機関の中堅前期看護職者 996 名を対象に、自尊感情と抑うつ状態に関連する職業性ストレスについての質問紙調査を行った。

[第 2 研究]全国 200 床以上の医療機関の中堅前期看護職者 1458 名を対象とした質問紙調査から、中堅前期看護職者の自己イメージ尺度を作成した。

[第 3 研究]中堅前期看護職者の自尊感情の低下予防を目標とした看護実践の見つめ直しプログラム(1 回 60 分, 1 事例, 全 10 回)を作成し、熊本県内にある 2 医療機関の中堅前期看護職者 13 名を対象に、プログラムを実施した。プログラムの評価は、中堅前期看護職者の自己イメージ尺度と自尊感情尺度による無記名自記式質問紙調査とプログラム終了後の個人インタビューで行った。

【結果/考察】[第 1 研究]中堅前期看護職者の自尊感情と抑うつ状態に関連する職業性ストレスは、「患者・家族との関係困難」と「達成感」であった。自尊感情の低下と抑うつ状態は相互に影響していた。

[第 2 研究]4 因子 15 項目からなる中堅前期看護職者の自己イメージ尺度が作成できた。自己イメージの低下は直接抑うつ状態を引き起こすと同時に、自尊感情を低下させた後に抑うつ状態を引き起こしていた。

[第 3 研究]「中堅前期看護職者の自己イメージに焦点を当てた看護実践の見つめ直しプログラム」の時間、進め方、回数、ルールの設定、グループの構成員については、すべての参加者から高い評価が得られた。個人の変化としては、プログラム前は自分に対してネガティブなイメージを持っていたり、離職願望のあった参加者がいたが、プログラム後は離職願望がなくなり仕事への意欲が感じられるようになっていた。また、プログラム前後での自己イメージ尺度得点、自尊感情得点の比較においても有意な改善が認められた。

【結論】同年代のメンバーでの対話を通して自己の看護実践の見つめ直しを行う本プログラムは、中堅前期看護職者の自己イメージや自尊感情を高めることがわかった。また、仕事への前向きな姿勢や自律的な課題への取り組みをもたらすことも示されたことから、中堅前期看護職者の離職願望の生起の予防につながる看護実践の見つめ直しプログラムを作成することができた。